

俳句

にわか雨樹下に集まる古都の鹿

篝火や紅葉衣の能舞台

父の忌や山茶花庭に散り乱る

時雨るるや看板小さき京の路地



川柳

笑うにも泣くにも男酒が要る

八十路すぎ笠を目深かに阿波踊り

老いの恋うろたえつつも心満ち

十三忌あとは省略だめですか？



文章表現を楽しむ科 題 男と女 1より

短歌

被災地に集う若者 頼もしき

額 流るる献身の汗

牙をむき 怒り狂うは風の神

あとに残るは安堵と畏怖か

